

資料編

第Ⅲ部

首都圏の高齢化のすがた

第1章 首都圏の高齢化のすがた

本章では、官庁統計を用いて、首都圏における高齢化の状況と高齢者の就業・活動状況を見ていくことにする。ここでは、主に①首都圏における高齢者の就業状況、②高齢化の進展状況、③就業・活動状況と活動組織の可能性、以上の3点に関わる統計調査を紹介する。

1節 首都圏における高齢者の現在の就業状況

現在の高齢者がどのような産業で、どのような就業形態で、どのような仕事に就いているのか、本節では、首都圏における高齢者の就業状況から紹介することにした。

図表Ⅲ-1-1-1 から60歳代前半層の産業別の就業比率を見ると、全体的には第三次産業の就業者が50%超を占めている。他方、第一次産業の比率は低い。特に、東京都(0.6%)や神奈川県(1.6%)、埼玉県(3.5%)、千葉県(6.0%)など南関東地方では第一次産業の比率が低くなっている。

図表Ⅲ-1-1-1 首都圏における年齢階級別の就業者数と割合

		第一次産業	第二次産業	第三次産業	分類不能
茨城県	55-59歳(人)	12,246	58,970	104,223	1,967
	構成比(%)	6.9	33.2	58.7	1.1
	60-64歳(人)	13,455	29,871	57,849	1,390
	構成比(%)	13.1	29.1	56.4	1.4
栃木県	55-59歳(人)	8,258	43,729	71,529	1,070
	構成比(%)	6.6	35.1	57.4	0.9
	60-64歳(人)	8,086	20,979	39,025	716
	構成比(%)	11.8	30.5	56.7	0.7
群馬県	55-59歳(人)	6,903	45,893	72,800	763
	構成比(%)	5.5	36.3	57.6	0.6
	60-64歳(人)	7,565	24,168	42,123	461
	構成比(%)	10.2	32.5	56.7	0.6
埼玉県	55-59歳(人)	8,043	133,280	278,745	8,610
	構成比(%)	1.9	31.1	65.0	2.0
	60-64歳(人)	9,460	84,041	171,635	6,657
	構成比(%)	3.5	30.9	63.1	2.4
千葉県	55-59歳(人)	13,316	90,817	249,535	7,318
	構成比(%)	3.7	25.2	69.1	2.0
	60-64歳(人)	13,297	53,945	150,012	5,543
	構成比(%)	6.0	24.2	67.3	2.5
東京都	55-59歳(人)	2,597	143,232	485,459	18,151
	構成比(%)	0.4	22.1	74.8	2.8
	60-64歳(人)	2,853	101,575	326,813	14,784
	構成比(%)	0.6	22.8	73.3	3.3
神奈川県	55-59歳(人)	4,258	132,315	337,980	11,046
	構成比(%)	0.9	27.2	69.6	2.3
	60-64歳(人)	4,932	75,922	216,049	7,894
	構成比(%)	1.6	24.9	70.9	2.6

資料出所：「国勢調査（平成17年）」（総務省）より作成

65歳以上に限定し、産業別（大分類）の就業者の構成を見たのが、図表Ⅲ-1-1-2である。茨城県や栃木県、群馬県といった北関東地方では農業に従事する高齢者が多くを占めている（茨城県40.3%、栃木県36.5%、群馬県35.5%）。他方、東京都や神奈川県においては、農業の従事者が少

なく、他方で「サービス業」に占める割合が高くなっている（東京都 22.3%、神奈川県 22.3%）。北関東地方では農業が働く場を提供し、南関東地方ではサービス業が就業・雇用の場を提供している。

図表Ⅲ-1-1-2 首都圏における65歳以上有業者の産業別の構成

	茨城県		栃木県		群馬県		埼玉県		千葉県		東京都		神奈川県	
	人	構成比(%)	人	構成比(%)	人	構成比(%)	人	構成比(%)	人	構成比(%)	人	構成比(%)	人	構成比(%)
計	126,187		89,531		96,053		250,307		214,126		538,732		282,155	
農業	50,860	40.3	32,658	36.5	34,139	35.5	39,888	15.9	45,851	21.4	10,651	2.0	18,925	6.7
林業	135	0.1	177	0.2	187	0.2	87	0.0	81	0.0	85	0.0	47	0.0
漁業	617	0.5	36	0.0	34	0.0	32	0.0	2,342	1.1	196	0.0	691	0.2
鉱業	45	0.0	61	0.1	30	0.0	26	0.0	80	0.0	51	0.0	54	0.0
建設業	8,863	7.0	5,654	6.3	6,181	6.4	21,823	8.7	16,755	7.8	39,238	7.3	25,933	9.2
製造業	11,690	9.3	10,346	11.6	12,590	13.1	38,893	15.5	19,701	9.2	72,623	13.5	30,608	10.8
電気・ガス・熱供給・水道業	54	0.0	24	0.0	59	0.1	157	0.1	123	0.1	176	0.0	176	0.1
情報通信業	334	0.3	141	0.2	153	0.2	1,720	0.7	1,755	0.8	6,731	1.2	2,852	1.0
運輸業	2,866	2.3	1,703	1.9	1,611	1.7	9,689	3.9	7,649	3.6	21,236	3.9	11,759	4.2
卸売・小売業	17,869	14.2	13,674	15.3	14,011	14.6	38,515	15.4	32,551	15.2	95,789	17.8	45,953	16.3
金融・保険業	647	0.5	458	0.5	512	0.5	2,368	0.9	2,176	1.0	6,076	1.1	3,258	1.2
不動産業	2,270	1.8	1,797	2.0	1,938	2.0	10,968	4.4	9,734	4.5	52,178	9.7	19,963	7.1
飲食店・宿泊業	4,359	3.5	4,452	5.0	4,678	4.9	9,224	3.7	9,054	4.2	31,172	5.8	14,450	5.1
医療・福祉業	3,456	2.7	2,797	3.1	3,447	3.6	9,761	3.9	8,865	4.1	29,481	5.5	16,080	5.7
教育・学習支援業	2,295	1.8	1,752	2.0	1,800	1.9	6,118	2.4	5,508	2.6	19,253	3.6	10,049	3.6
複合サービス業	418	0.3	360	0.4	340	0.4	708	0.3	736	0.3	1,106	0.2	1,087	0.4
サービス業	14,805	11.7	10,920	12.2	11,382	11.8	45,809	18.3	39,104	18.3	120,166	22.3	63,083	22.4
公務	2,244	1.8	1,304	1.5	2,041	2.1	5,546	2.2	4,068	1.9	5,695	1.1	4,145	1.5
分類不能	2,360	1.9	1,217	1.4	920	1.0	8,975	3.6	7,993	3.7	26,829	5.0	13,042	4.6

資料出所：「国勢調査（平成17年）」（総務省）より作成

図表Ⅲ-1-1-3 首都圏における高齢者の従業上の地位（男性）

	総数(人数)	構成比	自営業主	家族従業者	雇用者								
					会社などの役員	正規の職員・従業員	パート	アルバイト	労働者派遣事業所の派遣社員	契約社員	嘱託	その他	
茨城県	60～64歳	72,600	100.0%	22.7%	0.1%	13.6%	27.5%	8.5%	6.7%	1.7%	6.1%	12.0%	0.7%
	65～69歳	43,400	100.0%	37.1%	0.2%	11.8%	15.0%	7.4%	11.1%	2.8%	5.3%	6.5%	2.8%
	70～74歳	26,000	100.0%	61.5%	1.2%	14.6%	8.1%	5.4%	3.1%	0.4%	4.2%	1.2%	
栃木県	60～64歳	47,600	100.0%	25.8%	0.2%	12.8%	27.3%	10.5%	4.4%	1.7%	5.3%	10.1%	1.7%
	65～69歳	28,400	100.0%	39.4%	0.7%	15.1%	14.4%	9.9%	6.7%	0.4%	3.9%	6.3%	2.8%
	70～74歳	18,100	100.0%	58.6%	2.2%	17.1%	6.1%	3.9%	3.3%	0.6%	1.7%	2.2%	3.9%
群馬県	60～64歳	47,300	100.0%	24.7%	0.4%	14.8%	24.9%	12.7%	4.9%	1.5%	5.9%	9.3%	1.1%
	65～69歳	31,200	100.0%	35.6%	1.3%	17.0%	11.9%	11.5%	7.7%	1.6%	3.5%	6.7%	2.9%
	70～74歳	17,700	100.0%	58.2%	2.3%	10.7%	7.9%	9.0%	4.5%	0.6%	1.1%	2.8%	2.3%
埼玉県	60～64歳	189,300	100.0%	20.3%	0.1%	17.2%	28.4%	8.1%	5.1%	1.3%	6.6%	10.2%	1.8%
	65～69歳	117,000	100.0%	25.0%	0.4%	15.7%	16.8%	16.0%	8.3%	1.9%	5.6%	6.8%	3.2%
	70～74歳	51,200	100.0%	44.9%	1.0%	19.3%	10.4%	4.9%	7.4%	0.4%	2.0%	4.9%	4.7%
千葉県	60～64歳	158,400	100.0%	17.0%	0.1%	17.4%	29.5%	7.6%	5.7%	1.1%	7.0%	11.4%	2.7%
	65～69歳	96,700	100.0%	29.0%	0.5%	20.0%	13.9%	11.4%	6.8%	0.9%	6.4%	7.8%	3.0%
	70～74歳	44,800	100.0%	38.6%	0.2%	21.4%	10.9%	6.9%	4.7%	1.1%	4.0%	4.7%	6.0%
東京都	60～64歳	311,200	100.0%	19.2%	0.3%	22.3%	24.9%	5.9%	4.9%	0.9%	8.3%	10.7%	1.9%
	65～69歳	200,600	100.0%	28.2%	0.2%	26.5%	12.0%	10.5%	6.7%	1.1%	5.5%	6.6%	2.8%
	70～74歳	120,600	100.0%	36.7%	0.9%	28.6%	11.4%	7.6%	4.3%	0.2%	1.4%	5.1%	3.2%
神奈川県	60～64歳	210,200	100.0%	13.9%	0.4%	20.2%	26.9%	8.8%	5.1%	1.2%	8.2%	12.4%	2.0%
	65～69歳	122,000	100.0%	19.3%	0.2%	18.4%	16.0%	13.6%	10.2%	1.9%	8.1%	8.2%	3.8%
	70～74歳	61,900	100.0%	35.1%	2.9%	26.5%	6.9%	10.2%	6.8%	0.5%	2.6%	5.2%	3.1%

資料出所：「国勢調査（平成17年）」（総務省）より作成

次に、男性の有業者の雇用形態を見たのが、図表Ⅲ-1-1-3である。都県を問わず、年齢が高いほど「正規の職員・従業員」の比率が低下する。他方で、働いている人のうち、年齢が高くなる

ほど「自営業主」として働き、雇用者の割合は低くなる。60歳代後半層についてみると、雇用者の比率は高いものの、茨城県や栃木県、群馬県の北関東地域では「自営業主」として働く人が多くなる傾向が見られる（茨城県 37.1%、栃木県 39.4%、群馬県 35.6%）。南関東地方では企業に雇われて働くことが主流になっている。

女性の場合を見ると（図表Ⅲ-1-1-4）、年齢層が高い場合には、自営業主・家族従事者として働く割合が高くなり、他方で「正規の職員・従業員」「パート」で働く割合が低下する。65歳代後半になると、茨城県や栃木県、群馬県の北関東地域では自営業主・家族従事者として働く割合が高く、合計すると約4割を占めるまでになる。一方で、埼玉県や千葉県、東京都、神奈川県は南関東ではこれらの割合は25%に留まる。他方で、雇用者の比率が高くなり、なかでも「パート」の割合が高くなっている（埼玉県 41.4%、千葉県 39.6%、東京都 31.6%、神奈川県 40.2%）。南関東地方では、企業などで雇われて働くことが主流になっている。

図表Ⅲ-1-1-4 首都圏における高齢者の従業上の地位（女性）

	総数(人数)	構成比	自営業主	家族従業者	雇用者								
					会社などの役員	正規の職員・従業員	パート	アルバイト	労働者派遣事業所の派遣社員	契約社員	嘱託	その他	
茨城県	60～64歳	41,000	100.0%	11.2%	13.7%	4.9%	19.3%	36.3%	5.6%	1.2%	1.2%	2.9%	3.4%
	65～69歳	24,500	100.0%	19.2%	24.5%	5.7%	21.6%	20.8%	4.5%	0.4%	0.8%	0.4%	2.0%
	70～74歳	13,200	100.0%	16.7%	49.2%	7.6%	12.9%	10.6%	0.8%	0.8%		0.8%	0.8%
栃木県	60～64歳	30,300	100.0%	12.9%	11.9%	6.6%	17.8%	38.9%	3.6%	0.7%	2.3%	2.6%	3.3%
	65～69歳	18,800	100.0%	18.6%	21.3%	13.3%	17.0%	20.2%	1.6%	0.5%		0.5%	6.4%
	70～74歳	12,800	100.0%	25.0%	33.6%	8.6%	14.8%	7.0%	3.1%	0.8%	0.8%		3.9%
群馬県	60～64歳	30,300	100.0%	13.9%	8.9%	11.9%	17.8%	33.0%	3.6%	1.0%	2.3%	3.6%	3.6%
	65～69歳	18,200	100.0%	15.4%	26.4%	9.3%	14.3%	27.5%	1.6%	1.1%	2.2%		2.2%
	70～74歳	11,000	100.0%	18.2%	40.0%	11.8%	13.6%	10.0%					2.7%
埼玉県	60～64歳	106,500	100.0%	10.8%	4.9%	6.4%	24.5%	44.5%	2.6%	0.6%	2.6%	2.0%	1.0%
	65～69歳	58,400	100.0%	11.3%	11.8%	4.8%	19.2%	41.4%	3.9%	1.4%	0.3%	1.9%	2.6%
	70～74歳	25,600	100.0%	28.9%	17.2%	13.3%	15.2%	20.3%	0.8%		1.6%		3.1%
千葉県	60～64歳	93,600	100.0%	10.6%	7.5%	7.6%	13.8%	40.4%	3.6%	0.9%	3.7%	4.5%	7.2%
	65～69歳	51,500	100.0%	13.8%	12.0%	6.4%	12.8%	39.6%	3.5%	0.4%	3.3%	1.2%	6.8%
	70～74歳	27,400	100.0%	19.0%	25.2%	9.1%	14.2%	17.2%	2.2%			1.1%	11.3%
東京都	60～64歳	189,000	100.0%	10.6%	9.7%	8.9%	18.7%	35.4%	3.9%	1.9%	6.1%	2.9%	1.8%
	65～69歳	124,500	100.0%	11.6%	14.5%	11.2%	18.7%	31.6%	4.1%	1.7%	2.2%	2.5%	1.5%
	70～74歳	70,500	100.0%	22.4%	14.3%	20.6%	15.6%	17.9%	3.1%		0.3%	0.6%	4.8%
神奈川県	60～64歳	120,700	100.0%	8.6%	5.2%	8.0%	21.2%	41.0%	4.4%	1.2%	3.1%	4.4%	2.3%
	65～69歳	68,700	100.0%	12.1%	11.9%	8.0%	16.3%	40.2%	3.3%	1.0%	1.7%	1.6%	3.1%
	70～74歳	37,300	100.0%	18.0%	13.7%	18.2%	20.4%	24.1%	0.8%	0.8%	2.4%		1.6%

資料出所：「国勢調査（平成17年）」（総務省）より作成

就業者がどのような仕事に就いているのかを見たのが、図表Ⅲ-1-1-5である。男性の60歳代前半層の場合、都県を問わず「生産・運輸関係職業」の割合が高く、特に群馬県（51.4%）や茨城県（48.1%）、栃木県（47.5%）の北関東地方で多くなっている。他方、東京都（36.6%）や神奈川県（35.7%）では「事務・技術・管理関係職業」の割合が高くなっている。70歳代前半層では、北関東地方において「農林漁業関係職業」（茨城県 32.7%、栃木県 38.7%、群馬県 31.6%）の割合が高くなっている。

女性の場合を見ると、60歳代前半層では東京都（38.4%）と神奈川県（39.7%）では「事務・技術・管理関係職業」が多くなる。他方で、「生産・運輸関係職業」の割合が低くなる（東京都

18.2%、神奈川県 19.4%)。一方、茨城県や栃木県、群馬県では、年齢が高い就業者ほど「農林漁業関係職業」についている人が多くなる。特に 70 歳代前半層では、就業者のうち 4 割強が「農林漁業関係職業」に従事している（茨城県 45.5%、栃木県 42.2%、群馬県 40.0%）。

図表Ⅲ-1-1-5 首都圏における高齢者の職業

		男性					女性						
		総数(人数)	構成比	職業				総数(人数)	構成比	職業			
				うち農林漁業関係職業	うち生産・運輸関係職業	販売・サービス関係職業	事務・技術・管理関係職業			うち農林漁業関係職業	うち生産・運輸関係職業	うち販売・サービス関係職業	うち事務・技術・管理関係職業
茨城県	60～64歳	72,600	100.0%	8.1%	48.1%	16.4%	25.8%	41,000	100.0%	13.2%	30.0%	26.6%	27.8%
	65～69歳	43,400	100.0%	15.7%	44.0%	15.9%	22.8%	24,500	100.0%	23.7%	19.6%	35.5%	20.0%
	70～74歳	26,000	100.0%	32.7%	25.0%	18.8%	21.5%	13,200	100.0%	45.5%	22.7%	17.4%	12.9%
栃木県	60～64歳	47,600	100.0%	9.2%	47.5%	17.6%	24.4%	30,300	100.0%	8.9%	31.0%	35.0%	24.1%
	65～69歳	28,400	100.0%	17.6%	44.0%	21.1%	15.8%	18,800	100.0%	26.1%	23.9%	31.4%	14.9%
	70～74歳	18,100	100.0%	38.7%	27.6%	17.1%	12.7%	12,800	100.0%	42.2%	15.6%	25.8%	13.3%
群馬県	60～64歳	47,300	100.0%	5.1%	51.4%	18.4%	23.9%	30,300	100.0%	9.2%	32.3%	29.4%	28.1%
	65～69歳	31,200	100.0%	17.0%	45.5%	19.2%	17.6%	18,200	100.0%	19.8%	31.3%	30.2%	17.6%
	70～74歳	17,700	100.0%	31.6%	32.2%	19.2%	14.7%	11,000	100.0%	40.0%	18.2%	22.7%	16.4%
埼玉県	60～64歳	189,300	100.0%	3.2%	41.6%	23.6%	27.9%	106,500	100.0%	3.9%	35.7%	24.7%	33.1%
	65～69歳	117,000	100.0%	5.4%	45.6%	20.6%	25.1%	58,400	100.0%	9.8%	27.2%	35.6%	24.7%
	70～74歳	51,200	100.0%	12.9%	34.6%	26.4%	21.5%	25,600	100.0%	13.7%	24.6%	34.8%	22.3%
千葉県	60～64歳	158,400	100.0%	4.2%	36.4%	24.2%	31.6%	93,600	100.0%	6.7%	26.2%	35.3%	29.0%
	65～69歳	96,700	100.0%	9.0%	37.3%	20.7%	30.2%	51,500	100.0%	13.6%	22.5%	34.6%	25.4%
	70～74歳	44,800	100.0%	16.3%	32.8%	19.6%	28.3%	27,400	100.0%	30.3%	17.5%	23.7%	23.4%
東京都	60～64歳	311,200	100.0%	1.0%	33.1%	24.9%	36.6%	189,000	100.0%	0.6%	18.2%	37.4%	38.4%
	65～69歳	200,600	100.0%	1.5%	41.5%	25.8%	25.8%	124,500	100.0%	0.7%	27.2%	31.3%	35.1%
	70～74歳	120,600	100.0%	2.1%	32.2%	30.8%	29.2%	70,500	100.0%	1.1%	19.4%	39.7%	32.6%
神奈川県	60～64歳	210,200	100.0%	1.8%	38.0%	21.6%	35.7%	120,700	100.0%	1.6%	19.4%	35.0%	39.7%
	65～69歳	122,000	100.0%	2.6%	37.5%	26.1%	28.5%	68,700	100.0%	2.9%	27.4%	32.2%	31.7%
	70～74歳	61,900	100.0%	4.7%	30.4%	29.4%	31.8%	37,300	100.0%	5.9%	16.4%	37.5%	35.4%

資料出所：「就業構造基本調査（平成 19 年）」（総務省）より作成

注：職業分類のうち、「農林漁業作業員」は「農林漁業関係職業」、「運輸・通信従事者」と「生産工程・労務作業員」は「生産・運輸関係職業」、「販売従事者」と「サービス職業従事者」と「保安職業従事者」は「販売・サービス関係職業」、「専門的・技術的職業従事者」と「管理的職業従事者」と「事務従事者」は「事務・技術・管理関係職業」に分類している。

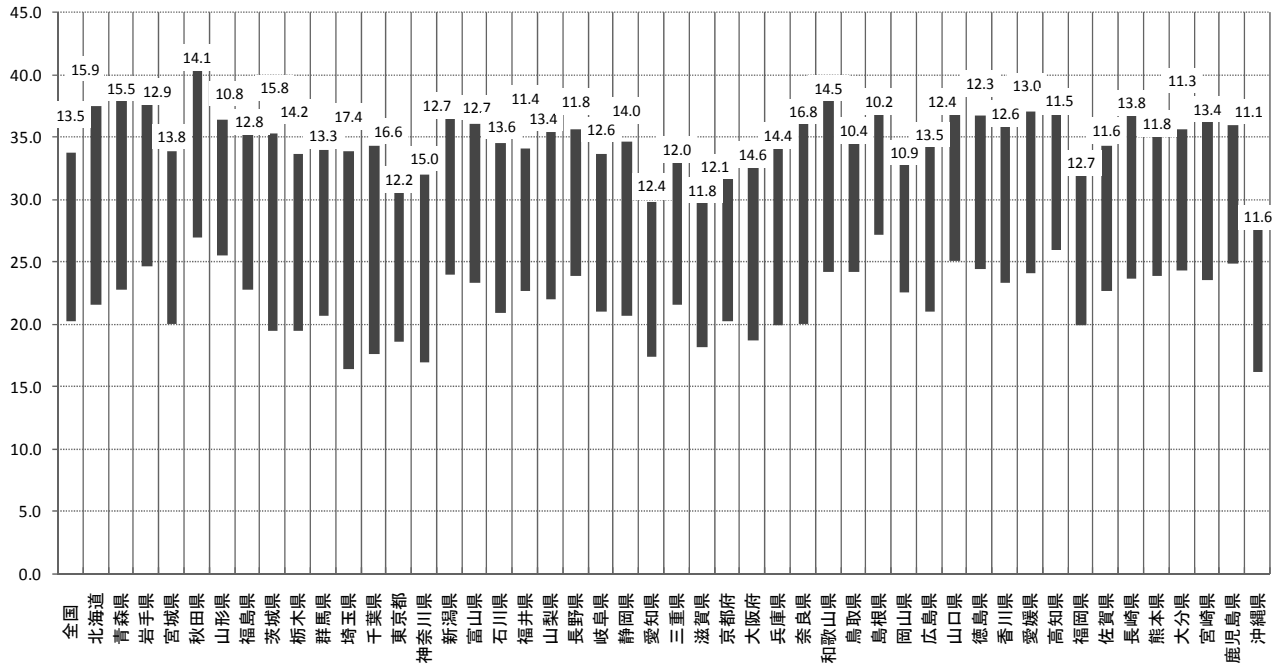
2 節 首都圏における高齢化をめぐる状況

首都圏における高齢化の状況を、図表Ⅲ-1-2-1 から見ることにする。2005 年の首都圏の高齢化率（65 歳以上割合）は、群馬県（20.6%）を除き、全国平均の 20.2%を下回っている（茨城県 19.4%、栃木県 19.4%、埼玉県 16.4%、千葉県 17.6%、東京都 18.5%、神奈川県 16.9%）。高齢化率が最も高い島根県（27.1%）と比較し、おおむね 10 ポイント近く低くなっている。これが 2035 年にかけて、首都圏の高齢化の進展は加速する。島根県は 2035 年にかけて 10.2%上昇し、37.3%になる見込みである。

一方、首都圏の状況を見ると、2035 年には、茨城県が 35.2%、栃木県が 33.6%、群馬県が 33.9%、埼玉県が 33.8%、千葉県が 34.2%、東京都が 30.7%、神奈川県が 31.9%になる。高齢化先行県である島根県よりも、高齢化率は低いものの、上昇率は茨城県が 15.8 ポイント、栃木県が 14.2 ポイント、群馬県が 13.3 ポイント、埼玉県が 17.4 ポイント、千葉県が 17.4 ポイント、東京都が 12.2 ポイント、神奈川県が 15.0 ポイントになる。流入人口が多い東京都でも高齢化の進展が速く、こ

これから高齢化にむけた対策を講じる必要が生じてくる。

図表Ⅲ-1-2-1 都道府県別、65歳以上人口割合と増加率（2005年と2035年）



資料出所：国立社会保障・人口問題研究所『日本の都道府県別将来推計人口－平成19年5月推計－』より作成

注1：棒グラフの上端が2035年の高齢化率、下端が2005年の高齢化率

注2：図中の数字は、2035年と2005年の高齢化率の差

図表Ⅲ-1-2-2 高齢夫婦世帯・高齢単身世帯の実数と増加率（首都圏のみ）

	実数						増減率(%)				
	昭和55年	昭和60年	平成2年	平成7年	平成12年	平成17年	昭和55年～昭和60年	昭和60年～平成2年	平成2年～平成7年	平成7年～平成12年	平成12年～平成17年
高齢夫婦世帯	1,025,948	1,415,490	1,967,499	2,762,585	3,661,271	4,487,042	38.0	39.0	40.4	32.5	22.6
茨城県	15,335	21,662	30,995	45,363	62,480	82,875	41.3	43.1	46.4	37.7	32.6
栃木県	10,327	14,731	21,171	30,890	41,839	52,941	42.6	43.7	45.9	35.4	26.5
群馬県	13,571	19,592	28,093	41,262	54,922	67,172	44.4	43.4	46.9	33.1	22.3
埼玉県	24,502	38,153	58,870	93,183	145,458	209,242	55.7	54.3	58.3	56.1	43.9
千葉県	25,613	38,689	59,661	91,649	137,686	193,483	51.1	54.2	53.6	50.2	40.5
東京都	115,167	155,766	208,085	277,072	359,065	432,031	35.3	33.6	33.2	29.6	20.3
神奈川県	47,826	71,684	108,485	159,672	225,912	295,267	49.9	51.3	47.2	41.5	30.7
高齢単身世帯	881,494	1,180,723	1,623,433	2,202,160	3,032,140	3,864,778	33.9	37.5	35.6	37.7	27.5
茨城県	11,700	15,945	22,162	30,683	42,415	56,804	36.3	39.0	38.4	38.2	33.9
栃木県	8,484	11,778	16,202	22,232	31,206	41,400	38.8	37.6	37.2	40.4	32.7
群馬県	10,179	14,272	20,168	27,701	37,915	48,843	40.2	41.3	37.4	36.9	28.8
埼玉県	16,972	25,255	39,905	60,766	97,324	143,923	48.8	58.0	52.3	60.2	47.9
千葉県	19,700	28,075	42,522	62,883	97,654	136,972	42.5	51.5	47.9	55.3	40.3
東京都	101,080	134,165	187,441	264,636	388,396	498,443	32.7	39.7	41.2	46.8	28.3
神奈川県	34,404	48,646	74,583	110,419	167,100	226,119	41.4	53.3	48.0	51.3	35.3

資料出所：「国勢調査（平成17年）」（総務省）より作成

注：「高齢夫婦世帯」とは、夫65歳以上、妻60歳以上の一般世帯をいう

高齢化が進展しても、家族や地域社会からの支援があれば、高齢期に安心して生活を送ることができる。そこで世帯構成を見ることにする。図表Ⅲ-1-2-2を見ると、高齢夫婦世帯と高齢単身

世帯ともに、増加の一途を辿っている。特に都心のベッドタウンがある千葉県や埼玉県では高齢夫婦世帯（平成12年から17年の増加率：埼玉県+43.9%、千葉県+40.5%）と高齢単身世帯（平成12年から17年の増加率：埼玉県+47.9%、千葉県40.3%）の増加が顕著に見られる。特に南関東において、家族に頼らない高齢期の社会生活に対する支援の必要性が高まっていると考えられる。

家族に頼らないためには、高齢期になっても生活を営むための収入を得るための機会が必要になる。自営業主であれば健康であれば年齢に関わりなく働くことが可能になる。一方、企業などで雇用される場合は、働ける期間に上限が設けられていることが多い。そこで、首都圏における年齢階級別の雇用者数と雇用者比率を見ることにする（図表Ⅲ-1-2-3）。50歳代前半層は雇用者比率が高く、首都圏においては75%を超えている。特に、埼玉県や千葉県、神奈川県といった都心に近い地域では、雇用者比率は高い。自営業主は少なく、企業などで雇われて働く人が多い状況にある。60歳代前半層になると、雇用労働者から引退する人が多くなり、相対的に雇用者の比率が低下する。経済的なニーズが高い雇用労働者は再度働く場を探索する必要に迫られる。組織や社会への貢献意欲が高い高齢者を含め、雇用労働者が働ける環境を整えることが求められる。

図表Ⅲ-1-2-3 雇用者数と雇用者比率（首都圏のみ）

	雇用者総数 (人)	雇用者数			雇用者比率 (%)	雇用者比率		
		雇用者50-54歳	雇用者55-59歳	雇用者60-64歳		雇用者比50-54歳	雇用者比55-59歳	雇用者比60-64歳
茨城県	1,130,062	136,081	124,800	57,990	77.3%	76.7%	70.3%	56.5%
栃木県	782,163	93,671	85,699	37,999	76.9%	75.7%	68.8%	55.2%
群馬県	771,593	88,538	86,717	41,454	76.0%	75.3%	68.6%	55.8%
埼玉県	2,883,745	306,593	322,287	175,596	82.2%	81.2%	75.2%	64.6%
千葉県	2,414,275	258,435	268,746	143,571	81.9%	80.4%	74.4%	64.4%
東京都	4,649,622	420,836	449,279	268,279	78.6%	75.4%	69.2%	60.1%
神奈川県	3,630,651	349,819	371,952	206,488	84.1%	81.8%	76.6%	67.7%

資料出所：「国勢調査（平成17年）」（総務省）より作成

3節 首都圏における就業の可能性

首都圏のうち、特に南関東において雇用労働者が多く、かれらの経済生活を営める環境の整備が求められる。そこで本節では、高齢者の就業状況を確認し、首都圏に特徴的な働き方・活動の可能性について紹介することにする。ここでは本編で検討する、企業や人材派遣企業、NPO法人、シルバー人材センターの概要を見ていくこととする。なお、各組織における高齢者の活用状況や組織活動の詳細は本編で論述している。

首都圏における有業率・無業率を男女別に見たのが、図表Ⅲ-1-3-1である。50歳代男性の合、都県を問わず、おおむね90%以上の人働いている。60歳代前半層はおおむね7割程度であり、

60歳代後半層は5割の水準になる。60歳代から無業率が増加する。女性の場合を見ると、男性よりも有業率は低く、50歳代後半層はおおむね6割の人が働いている。60歳代前半層は4割強の人が働いている。女性の場合、50歳代後半から無業率が増加する。

無業者に占める求職者の割合を見ると、60歳代前半層の男性の場合、2割弱の人が求職活動を行っている。若干、東京都と神奈川県の高くなっている（東京都20.0%、神奈川県18.9%）。60歳代前半層の女性の場合、おおむね5%強であるが、群馬県では他都県にくらべて若干高くなっている（10.2%）。

図表Ⅲ-1-3-1 年齢階級別、有業率・無業率、求職者割合（首都圏のみ）

		男性				女性			
		50～54歳	55～59歳	60～64歳	65～69歳	50～54歳	55～59歳	60～64歳	65～69歳
茨城県	人口	103,700	127,600	101,000	90,500	100,800	126,200	99,700	88,800
	有業率	95.8%	92.2%	71.9%	48.0%	72.1%	62.7%	41.1%	27.6%
	無業率	4.2%	7.8%	28.0%	52.0%	27.9%	37.3%	59.0%	72.4%
	無業者に占める求職者割合	40.9%	36.4%	13.8%	6.8%	11.0%	10.6%	6.5%	3.9%
栃木県	人口	72,400	88,400	65,900	56,100	69,100	84,700	64,700	58,300
	有業率	94.3%	91.4%	72.2%	50.6%	76.0%	64.8%	46.8%	32.2%
	無業率	5.7%	8.7%	27.8%	49.4%	24.0%	35.3%	53.0%	67.8%
	無業者に占める求職者割合	36.6%	27.3%	16.9%	12.6%	19.3%	13.7%	6.4%	5.3%
群馬県	人口	66,800	84,000	68,600	59,200	64,800	84,300	69,600	62,500
	有業率	93.1%	89.5%	69.0%	52.7%	75.2%	67.0%	43.5%	29.1%
	無業率	6.7%	10.6%	31.0%	47.3%	24.7%	33.0%	56.5%	70.7%
	無業者に占める求職者割合	26.7%	34.8%	16.0%	8.6%	18.1%	12.2%	10.2%	4.3%
埼玉県	人口	224,200	293,700	254,800	228,800	216,900	296,300	258,400	226,300
	有業率	95.0%	92.5%	74.3%	51.1%	68.8%	58.6%	41.2%	25.8%
	無業率	5.0%	7.5%	25.7%	48.9%	31.2%	41.4%	58.8%	74.2%
	無業者に占める求職者割合	38.9%	39.5%	14.5%	7.7%	15.2%	14.0%	7.1%	4.0%
千葉県	人口	191,700	251,800	217,300	194,500	189,700	256,500	223,900	195,100
	有業率	94.2%	93.5%	72.9%	49.7%	66.6%	58.1%	41.8%	26.4%
	無業率	5.8%	6.5%	27.1%	50.3%	33.4%	41.9%	58.2%	73.6%
	無業者に占める求職者割合	35.7%	29.4%	17.3%	7.0%	18.5%	10.4%	5.1%	2.9%
東京都	人口	372,500	472,600	398,900	357,000	354,900	460,600	412,400	393,800
	有業率	92.6%	90.6%	78.0%	56.2%	69.4%	63.1%	45.8%	31.6%
	無業率	7.4%	9.4%	22.0%	43.8%	30.6%	36.9%	54.2%	68.4%
	無業者に占める求職者割合	35.0%	29.9%	20.0%	6.5%	17.7%	9.6%	6.9%	4.1%
神奈川県	人口	262,900	341,400	290,000	262,700	252,100	341,700	298,800	271,200
	有業率	95.0%	91.9%	72.5%	46.4%	65.8%	58.5%	40.4%	25.3%
	無業率	5.0%	8.1%	27.5%	53.5%	34.2%	41.5%	59.6%	74.6%
	無業者に占める求職者割合	40.5%	32.6%	18.9%	10.5%	16.3%	9.8%	6.1%	3.8%

資料出所：「就業構造基本調査（平成19年）」（総務省）より作成

60歳代になると有業率は低下するが、企業で長く働いてきた人はおおむね何歳まで働くことができるのか。厚生労働大臣が毎年6月1日現在の高年齢者の雇用状況の報告を義務付けているが、この報告を厚生労働省が集計した「平成22年「高年齢者の雇用状況」集計結果」（平成22年10月29日職業安定局発表）から見ていくことにする。定年の引き上げや継続雇用制度の義務年齢は年金支給開始年齢にあわせて64歳になっているが、改正高年齢者雇用安定法に基づき雇用を確保する企業（31人以上）は、首都圏においても95%以上になっている。64歳までは企業において雇用される状況にある。一方、①定年の定めがない企業、②定年が70歳以上の企業、③継続雇用制度において希望者全員・基準該当者が70歳以上まで働ける企業、④③以外で実情に合わせて70歳以上まで働ける仕組みがある企業、以上のいずれかに該当する「70歳まで働ける企

業」割合は、おおむね 20%の水準になっている。企業で就業する場合、高齢者雇用安定法で定める年齢がひとつの退職時期の目安になっている（図表Ⅲ-1-3-2）。

図表Ⅲ-1-3-2 高齢者の雇用確保の状況（常時雇用する 31 人以上の企業、首都圏のみ）

	雇用確保措置導入 企業割合 (%)	65歳以上まで希望 者全員が働ける企 業割合 (%)	70歳まで働ける企 業割合 (%)
全国	96.6	46.2	17.1
茨城県	96.9	50.2	17.5
栃木県	95.8	51.1	16.4
群馬県	96.1	52.7	15.1
埼玉県	96.2	50.4	19.4
千葉県	95.4	50.9	22.6
東京都	96.8	35.8	15.1
神奈川県	96.5	44.8	17.0

資料出所：「平成 22 年高齢者の雇用状況集計結果」（平成 22 年 10 月 29 日厚生労働省）より作成

図表Ⅲ-1-3-3 地域ブロック別、労働者派遣事業の状況

	常時雇用労働者数		常時雇用以外の労働者数		登録者数	
	平成21年度	構成比	平成21年度	構成比	平成21年度	構成比
全国	659,970.0	100.0%	614,738	100.0%	2,060,756	100.0%
北海道	12,327 △ 19.7	1.9%	13,789 △ 13.9	2.2%	44,922 △ 15.9	2.2%
東北	25,279 △ 50.5	3.8%	21,246 △ 40.2	3.5%	68,448 △ 47.8	3.3%
南関東	284,370 △ 7.1	43.1%	277,647 △ 15.3	45.2%	897,019 △ 23.0	43.5%
北関東・甲信	40,494 △ 40.9	6.1%	39,013 △ 29.2	6.3%	101,333 △ 36.7	4.9%
北陸	14,895 △ 38.4	2.3%	19,579 △ 19.1	3.2%	51,025 △ 29.6	2.5%
東海	98,010 △ 27.3	14.9%	59,833 △ 38.0	9.7%	240,825 △ 30.8	11.7%
近畿	110,281 △ 14.3	16.7%	111,393 △ 24.7	18.1%	394,496 △ 21.1	19.1%
中国	26,138 △ 43.7	4.0%	19,900 △ 37.2	3.2%	74,165 △ 39.5	3.6%
四国	6,931 △ 23.2	1.1%	10,437 △ 27.5	1.7%	33,297 △ 31.6	1.6%
九州	41,245 △ 31.9	6.2%	41,901 △ 26.6	6.8%	155,226 △ 26.2	7.5%

資料出所：「平成 21 年度労働者派遣事業報告の集計結果」（平成 22 年 10 月 6 日厚生労働省）

注：各ブロックの下段は、前年度からの増減率

首都圏で就業する場合、他の地域と違う特徴として外部労働市場が整備されている点が挙げら

れる。そこで、図表Ⅲ-1-3-3 から労働者派遣事業の状況を見ていくことにする。「平成 21 年度労働者派遣事業報告の集計結果」（平成 22 年 10 月 6 日厚生労働省職業安定局）によれば、すべての地域ブロックにおいて「常時雇用労働者数」「常時雇用以外の労働者数」「登録者数」景気低迷などの影響を受け、いずれも減少傾向にあるものの、南関東において構成比がもっとも高くなっている。労働者数ベースで見ると、南関東において労働者派遣事業の約 4 割強が集中している。現在派遣スタッフは 20 歳代や 30 歳代が中心になっているが、派遣企業には営業やマッチング、フォローといった組織運営のノウハウが蓄積されているため、若年層に比べて高齢者が相対的に増加すれば、首都圏において高齢者の派遣労働市場が拡大する可能性もある。

高齢期には企業に雇われて働く以外にも、現役時代の収入からは大幅に減少するが多少の収入を伴いながら、社会貢献や集う場を求めて働くことを希望する人もいる。「働く」ことを通じて地域コミュニティの一員となる場を提供する組織のひとつに、シルバー人材センターがある。図表Ⅲ-1-3-4 を見ると、首都圏における会員の平均年齢は 70 歳前後となっている。長い職業生活を終えた後に、あらたに地域で仕事をはじめめる場を提供している。平成 21 年度は首都圏において、「請負や委任」で 18 万人以上が就業している。一方で、シルバー派遣事業の展開を見ると、首都圏の実績は 560 名ほどであり、シルバー派遣事業は萌芽期であるともいえる¹。

図表Ⅲ-1-3-4 平成 21 年度、首都圏におけるシルバー人材センターの活動状況

センター名	会員数(人)			就業実人員(人)		就業率(%)		粗入会率(%)	平均年齢(歳)		
	計	男性	女性	請負・委任	派遣	請負・委任	派遣		全体	男性	女性
茨城県計	19,563	13,356	6,207	15,688	212	80.2	80.3	2.2	69.7	69.9	69.4
栃木県計	11,419	7,633	3,786	10,085	95	88.3	100.0	1.9	70.1	70.2	69.9
群馬県計	9,370	6,635	2,735	7,852	46	83.8	97.9	1.5	70.3	70.4	69.9
埼玉県計	51,756	36,452	15,304	42,637	12	82.4	48.0	2.6	70.0	70.3	69.3
千葉県計	25,004	19,029	5,975	20,758	26	83.0	81.3	1.5	70.2	70.4	69.6
東京都計	85,838	57,133	28,705	64,374	43	75.0	30.3	2.5	71.8	72.2	71.0
神奈川県計	36,424	26,716	9,708	24,898	130	68.4	99.2	1.5	70.4	70.7	69.5

資料出所：社団法人全国シルバー人材センター事業協会 HP より作成

注：「粗入会率」とは当該地域における 60 歳以上人口に占める会員数の割合である

シルバー人材センター以外にも、高齢期に就業・活動する場、あるいは高齢者の生活を支える組織に NPO 法人があると考えられる。東京都における NPO 法人の認証数及び人口 10 万人あたりの NPO 法人活動数は、全国 1 位である。認証数で見ると、首都圏には NPO 法人が多いことがわかる。活動主旨を理解し、かつ業務遂行方法に適応できれば、高齢期の雇用・活動の場としての可能性もあるといえる（図表Ⅲ-1-3-5）。

¹ 平成 16 年 12 月からは改正高齢法の施行を受け、シルバー人材センターを助言する立場にある各都道府県のシルバー人材センター連合会が届け出により派遣元事業主となり、一般労働者派遣の事業展開が可能になった。マッチングや営業活動といった派遣事業を行う実施事業所は、主として各シルバー人材センターになる。

図表Ⅲ-1-3-5 首都圏におけるNPO法人数

所轄庁名	NPO法人			
	認証数(2010年11月30日現在)	認証数県別の順位	人口10万人当たりのNPO法人活動数	人口10万人当たりのNPO法人活動数の県別の順位
茨城県	535	22	18.0	47
栃木県	469	25	23.3	39
群馬県	678	13	33.5	9
埼玉県	1487	7	21.1	44
千葉県	1601	5	26.4	30
東京都	6702	1	53.3	1
神奈川県	2597	3	29.5	17

資料出所：NPO法人の認証数は内閣府HPより作成

注：人口10万人当たりのNPO法人活動数の算出は、「国勢調査（平成17年）」（総務省）を用いている

執筆者一覧

総論

第1章・第2章 永野 仁

本編

第Ⅰ部 民間事業所調査編

第1章・第2章 永野 仁

第3章 西村孝史

第Ⅱ部 人材派遣業調査編

第1章・第2章 西岡由美

第3章 河邊彰男

第Ⅲ部 NPO 法人調査編

第1章 安田尚道

第2章 山岸秀雄

第3章 木下大生

第Ⅳ部 シルバー人材センター調査編

第1章・第2章 塚本成美

第Ⅴ部 労働市場の状況

第1章・第2章 永野 仁

資料編

第Ⅱ部第1章、第Ⅲ部 鹿生治行

首都圏におけるエイジフリー社会に向けた就業・社会活動に関する調査研究報告書

平成23年3月30日発行

編集・発行 独立行政法人 高齢・障害者雇用支援機構

〒105-0022 東京都港区海岸1丁目11番1号

ニューピア竹芝ノースタワー

電話 03-5400-1656（雇用推進・研究部 研究開発課）

印刷所 株式会社 キタジマ
